

## Life のそばで生きていく

### Life それは命、Life それは生活、Life それは人生

高知県立大学看護学部は、1952年に高知女子大学家政学部看護学科として我が国で初めて4年制大学で看護学教育をスタートして68年、実践—教育—研究の連環の中で「看護学とは何か」を探究し、将来に拓かれた看護学の構築にチャレンジし続けています。大学院は、1998年に看護学研究科（修士課程）としてスタートし、2014年に看護学専攻博士前期課程・博士後期課程、博士課程をもつ研究科へと発展し、創設期から拡充・発展へと向かっています。

本年報は、看護学部、看護学研究科の教育活動・研究活動・社会連携活動を中心にまとめたものです。看護学部は、高知女子大学の“看護学を探究する教育”“看護実践を大切にする教育”“学生の個性を伸ばす教育”を大切に、次代の看護専門職者の教育に力を注いでいます。

2020年度は、新型コロナウイルス感染症により大学の教育、研究、社会連携活動、国際交流などの活動が大きな影響を受けました。4月より遠隔授業が開始となりました。開始直後には様々なトラブルがありましたが、授業方法が変わっても学修到達目標は変えないで学生の「健康と安全、学ぶ権利を守る」努力をしてきました。例年行っている多くの活動は、中止・延期をせざるを得ないものもありましたが、感染予防行動を最大限行い、新たな方法やWebを活用して学生と教職員、地域の方々と協働して取り組みました。

新ディプロマ・ポリシーを策定し、カリキュラム改革の基本方針にそって新カリキュラムの検討を進め、令和4年度から運用するプログラムを開発しました。演習や学内実習においては、効果的なシミュレーション演習が実施できる環境、遠隔でもシミュレーション教育に参加できる環境を整備し、学生の能動的学習を支援しました。学外での実習は臨地の状況を把握しつつ、柔軟に対応できるように方針を決めて取り組みました。また、遠隔授業の時期の新入生への配慮や経済的支援体制の充実を行い学生のニーズを重視した安全で豊かな学生生活の支援と、及びキャリア支援に努めました。学生は現状の中で将来について考え、看護専門職者としての自己を形成すると共に、広く社会に目を向け、立志社中の活動などにも積極的に取り組みました。

大学院では、災害に強い専門職育成に向けて災害看護副専攻プログラムの規程整備や、博士後期課程の学位プログラムとしての充実を図るために専攻共通科目の強化や災害・国際看護学の科目を新設しました。また、博士前期課程・後期課程ともにカリキュラムツリー等の整備を行い、学修プロセスの可視化や学位論文の審査基準に基づく学修成果の可視化や、修了生対象にカリキュラム評価を実施し、研究科の研究力、国際性・学際性の強化に取り組んでいます。

教育研究活動については、FD活動を活発化し、令和2年度は特に教員の教育力を伸ばすことを目指して努力しました。また、研究環境促委員会を中心とした活動により、競争的外部資金に応募し、48件の外部資金を獲得し、他大学の教員や実践家、大学院修了生と共同研究に取り組み、その成果の発信や、学内の戦略的研究推進プロジェクト研究に取り組んでいます。

社会連携活動では、高知医療センターとの包括的連携事業や健康長寿センターの活動に積極的に参画し、一般市民を対象とした健康文化の創造を目指す活動や、専門職者を対象とした活動を実施し、専門職者の方々と共に看護の質の向上に努めました。新型コロナウイルスの影響を受け、文部科学省職業実践能力育成プログラムや教育職員免許状更新講習などは中止となりましたが、寄付講座をはじめとする高知県と協働した事業、高知県看護協会との連携事業など、専門職者の教育に取り組みました。

令和3年度は、コロナ禍においても歩みを止めないで、伝統を継承しつつ新たなことにチャレンジし、さらに充実・発展していくよう、努力していきたいと考えています。

高知県立大学看護学部  
学部長 藤田佐和